



校長室通信

ぶんせき はさまたかふみ
文責 狭間卓史

「気分晴ればれ」

11月8日(日)、南小国町社会福祉協議会主催による「晴ればれりんどろボランティア」が行われました。この事業の目的は本校生徒が地域社会との交流の機会を持ち、様々な体験活動を通じて地域福祉活動(支え合い活動)への理解を深め、社会の中での連帯・共生の意識を育むことにあります。当日は、生徒43人、職員7人の計50人で参加しました。本校生徒は5つのルート(グループ)に分かれて取り組みましたが、紅葉がきれいなこの時期は落葉も多く、設定された時間内では終わることが出来ないほどでした。ただ、このことは、生徒が自分たちで仕事を見つけ、より丁寧に取り組んでくれたからでもあります。汗ばみながら意欲的に取り組む姿に接して、晴ればれとした思いになれました。



【いい笑顔です】

「つながる力を育てる」

9日(月)、「親の学びプログラム」に取り組みました。このプログラムは、本県社会教育課が家庭教育における子育て支援として始めたプログラムで、子育てをキーワードに親同士が繋がっていくところにそのねらいがあります。全国的にも注目されている取り組みで、本校生徒が体験したのはその「次世代編」でした。お互いの考え方やその違いに学び、つながる力を高めていくことは、生徒の今とこれからにおいても大切なことです。保護者さん方も学ばれたことがおありでしょうが、またどこかで紹介させていただきます。



【縦割り班での意見交換】

「プロの話術」～学校寄席～

先月26日(月)のことですが、小国高校・小国中との三校合同芸術鑑賞会が開催されました。これは、中高一貫校として小国郷の三校が連携を図るために取り組んで来たことですが、本年度は「学校寄席」が企画され落語を鑑賞しました。昨年度までは小国高校体育館での開催でしたが、本年度は新型コロナウイルス感染防止対策を図るために、小国ドームを貸し切った開催でした。



【似合っていますね】

私は当日出張で参加することが出来ず残念だったのですが、春風亭柳之助さんらのプロの落語家の方々の語りは、表情の豊かさとともに間の取り方が旨くて、聞きやすかったとのこと。さすがプロの噺家さん方でした。